

ぼくの町の田んぼの景色

呉市立広小学校 三年 相原 潤

「広の町には、おかしはもっ」と田んぼかた
くさんあったのよ。」

そう合のじゅぎょうで、学校の近くを歩いた
時、先生が教えてくれました。ぼくは、田ん
ぼが広がる広の景色を思いうかべました。

ぼくの通う広小学校の近くには、田んぼが
たくさんあります。ぼくは田んぼの景色が大
好きです。ぼくは、けん道を習っています。

けん道の道場に通うと中、いつも田んぼの横
を通ります。田んぼの横を通る時、弟と田ん
ぼを見ながら、田んぼの話をします。同じ景
色でも、季節が変わると全くちがう道を通っ
ているような気持ちになります。

春、レンゲの花が一面にさいています。そ
の時、きれいたね。レンゲの花で花かんむり
が作りたいね。と話します。五月、こいのぼ
りが風をいっぱい受けて泳いでいます。その
景色を見ると、すっきりした気持ちになりま

す。そのころ、田んぼにキラキラした水が入ります。その後、まっすぐならんでいわが植えられます。小さいいわがならぶすがたを見ると、すごくかわいいね。と話します。

夏には、いわはお日様に負けすぐんぐんのひて、元気に育っているね。と話します。トボボボがたくさんとんで、カエルの鳴き声も聞こえ、とてもワクワクします。いわが風にそよぐところを見て、とてもすすしくなります。

秋のはじめ、のびたいねの先に金色のいなほがたれ下がるころ、もう少しでかり入れかね。と話をしていると、次に通った時、かり入れられています。あのお米、たれが食べるかね。お茶わん何はいかね。と話します。

ぼくは、お米の景色を見て、季節を感じるだけでなく、たくさん発見したり、たくさん感じたりすることができます。広では、昔にくらべると田んぼがへっているの知りました。でも、毎日食べるお米が、こんな風に育つところを見られる、ぼくの町が大好きです。